

刊行にあたって

天竜川は、長野県にある諏訪湖を源として、長野県の伊那谷を経て、遠州地方を流下し、遠州灘に注ぐ流路延長213km、流域面積5,090km²の我が国
有数の大河川です。

天竜川は農業、発電、水道、工業用水の供給やレクリエーション活動の場として、流域住民の生活や産業に多大な恵みをもたらす一方、かつては、「暴れ天竜」として毎年のようにはん濫し、流域の人々の生命や財産を奪うような災いももたらしてきました。

今から70年ほど前、天竜川沿川の方々は、短期間に幾種もの苦難を経験しました。昭和19年12月の「東南海地震」、戦争末期の「浜松大空襲」、そして、終戦直後の昭和20年10月に発生した天竜川西派川の決壊です。

しかし、この天竜川の決壊により甚大な被害が発生したにもかかわらず、終戦直後の混乱期であったことから、被害記録があまり残されていません。また、長い歳月が経ち、被災された方々の高齢化、治水事業の伸展などから災害の風化が進み、「暴れ天竜」も人々の記憶から次第に薄れつつあると思われます。

本資料は、この昭和20年10月に発生した天竜川の大洪水の「記憶」を風化させないために、堤防の決壊により災害を体験された方々の貴重な「証言」をとりまとめ、その他の災害の記録とあわせ、これらの「記憶」を「伝承」することを目的に製作したものです。

本資料により、災害の恐ろしさを地域の皆さまが伝承し、万一に備える一助となれば幸いです。

なお、本資料の製作にあたり、貴重な証言を寄せて頂いた方々や、自治会、自治体、ご協力頂きました団体や企業に対し厚く御礼申し上げます。

2016年3月
国土交通省 中部地方整備局
浜松河川国道事務所長
加藤 史訓

目次

1	刊行にあたって
2	Chapter 1 「暴れ天竜」天竜川
3	天竜川の概要
4	遠州天竜川 災害と治水の歴史
5	治水の沿革
6	Chapter 2 昭和20年10月洪水の概要
7	昭和20年10月洪水
9	天竜川決壊を伝える新聞報道
10	Chapter 3 伝承・昭和20年10月5日
11	家族を失った昭和20年10月5日
14	地域で助け合い、救われた命
17	間一髪、屋根板を突き破って避難
18	天竜川堤防決壊の河輪地区水害について
19	後世に語り継ぐ、大洪水の記憶
24	Chapter 4 「暴れ天竜」災害の記録
25	明治44年8月洪水
27	昭和13年7月洪水
29	昭和19年12月 東南海地震
31	昭和35年8月・昭和36年6月洪水
33	昭和43年8月・昭和44年8月洪水
35	昭和49年7月 七夕豪雨
37	昭和57年8月・昭和58年9月洪水
39	洪水被害を伝承する取り組み
40	Chapter 5 水防災意識社会の再構築
41	平成27年9月 関東・東北豪雨
43	水防災意識社会 再構築ビジョン
45	掲載資料出典一覧

表紙写真
天竜川西派川堤防決壊直後の家屋の倒壊状況（浜松市南区金折町普門寺）

Chapter

1

「暴れ天竜」天竜川